

ウイルスベクター特集でお伝えしたいこと

- ① 遺伝子治療の時代。近い将来、医薬品の3分の1は遺伝子治療薬に置き換わると言われています。遺伝子治療の主要技術がウイルスベクターです。
- ② 欧米ではウイルスベクター研究が大きく進展。遺伝子治療薬が相次いで開発・承認されています。難病が治るようになりました。
- ③ 日本が欧米に引き離されているのは基礎研究不足が原因です。わが国の遺伝子治療細胞学会の会員は増えているとはいえ300人ほど。米国の同様の学会の会員は6,300人。
- ④ 群馬大学のウイルスベクター開発研究センターは、ウイルスベクターに特化したわが国初の研究機関です。
- ⑤ 世界最先端のウイルスベクターを開発し、他の大学・研究機関に供給する研究機関を「ウイルスベクターコア」といいますが、同センターはわが国最大のウイルスベクターコアです。同センター長で大学院医学系研究科の平井宏和教授の最先端ウイルスベクター開発力は日本一です。平井グループが他大学・研究機関に供給するウイルスベクターの件数は、年間200を超えており、わが国の生命科学・遺伝子治療研究に多大な貢献をしています。
- ⑥ わが国が遺伝子治療研究で巻き返しを図るには、研究のすそ野を広げるとともに研究を加速させる必要があります。医薬品開発の前提となるのは、新規ウイルスベクターを開発して特許を取得することです。
- ⑦ 欧米とは違った切り口で、わが国が独自のウイルスベクターを開発して遺伝子治療に結びつける余地は残されています、今なら間に合います。巻き返しは、新規ウイルスベクター開発力日本一の群馬大学が牽引しなければならないと考えており、全学をあげてウイルスベクター開発研究センターの取り組み、平井教授の研究を支えていきます。

ウイルスベクター開発支援から日本の医療イノベーションを！

